

水土里情報クラウドシステム(LGWAN、インターネット相互対応)の導入後の経過について説明します

今回紹介する団体: 水土里ネットかながわ

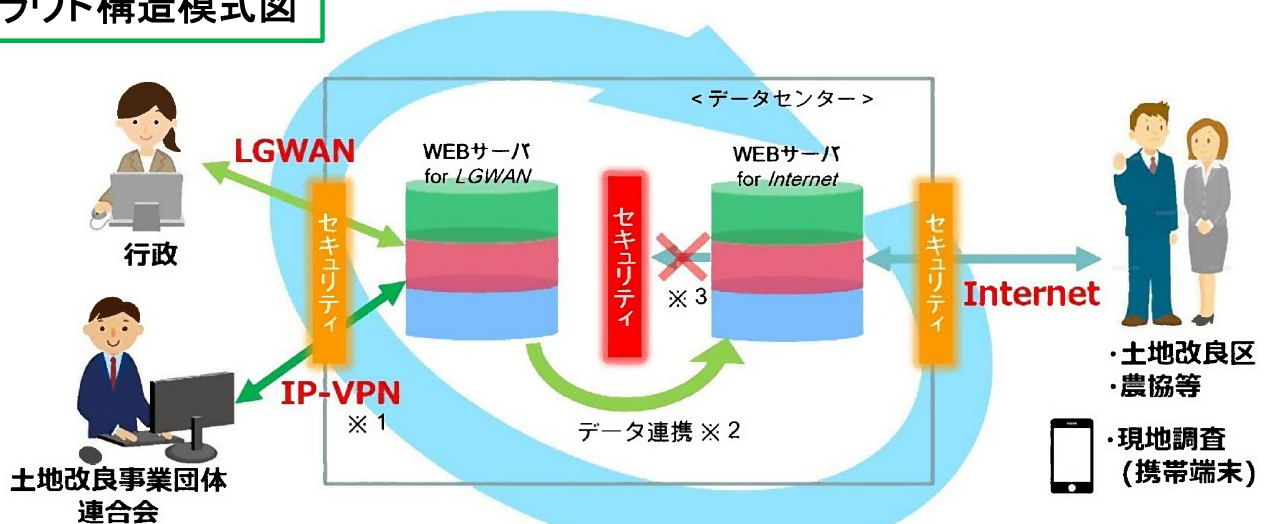
取組概要

内容: 総合行政ネットワーク(LGWAN 県・市町村・農業委員会)とインターネット一般回線(土地連・土地改良区・農協等)の双方から共通のシステムを利用して、情報共有・データ更新が行えるクラウドシステムを構築し、平成31年4月から運用を開始、令和4年時点で県、1市2町において耕作放棄地や農地賃借状況の確認、土地改良施設の管理等の業務に活用されている。

経緯: 本会では水土里情報利活用促進事業でGISを導入して以降、スタンドアロンのシステムのみで運用していたが、ユーザーからの要望に応えるため、新たにクラウドシステムを導入(詳細について「水土里情報活用ニュース・レター第139号」を参照)し、両システムの併用運用を行っている。

今回はクラウドシステム導入から約3年経過の状況報告を行う。

クラウド構造模式図



- ※1. VPN回線を通じて、LGWAN側のWEBサーバーにアクセス。(行政のLGWAN回線と直接つながるわけではない)
- ※2. LGWAN側で編集・更新されたデータをバッチ処理でInternet側と同期させることが可能。
- ※3. 本会ではセキュリティの観点から、Internet側からLGWAN側を編集又は同期させることができない構造としている。

取組による効果

1. 利用率の向上

スタンドアロン型のシステム時は月に数回程度の利用率(聞き取り調査)に留まっていたものの、クラウドシステムに移行後はほぼ毎日アクセスされおり(管理ツールよりログイン情報を確認)、利用率の向上につながっている。

2. 保守対応の強化

利用者のデータ状態をほぼリアルタイムに確認できるため、操作方法の質問やエラー等への対応にかかる時間が大幅に短縮されるなど、保守対応が強化されたことにより、利用者にとっては利便性が向上したとの評価を得ている。

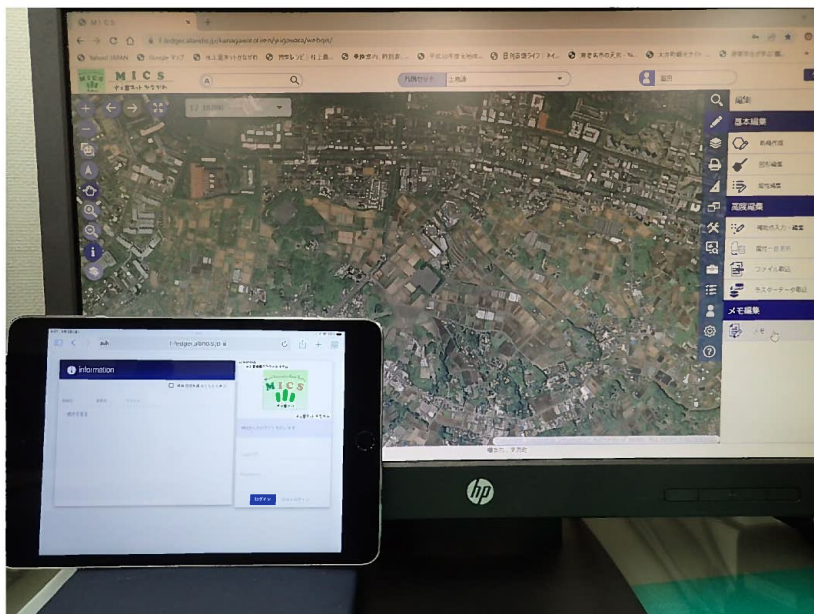
3. セキュリティ強化

本システムはLGWANデータセンターを利用しており、インターネット環境も同様のセキュリティが確保されている。そのため、利用者のデータをより安全に取り扱うことが可能になるなど、信頼性を確保できている。

ある利用団体ではリモート化が進み、自宅への持ち出し可能なPCもLGWAN回線を利用できる仕組みとなっているため、在宅勤務時でもシステム利用が可能となっている。

4. ブラウザを利用したインターネット相互システム

本システムはブラウザ上のシステムであり、インターネット環境とも相互利用できるため、タブレット端末からも閲覧でき、現地調査や地元説明会での活用も可能になった。



(水土里情報クラウドシステム)

今後の活用予定

各利用団体のデータは同じサーバー内に保存されているため、団体間の合意がある場合は、即時にデータ共有が可能となるため、災害発生時や複数の行政機関を経由する施設管理等の利用が期待できる。一方で、LGWANのデータセンター利用費が高額であり新規利用の獲得が難しいのが現状である。

現段階で水土里情報システムをLGWAN環境で運用している連合会は全国的にも数県しかないため、GISエンジンの見直しを検討している連合会があれば、ぜひ気軽にご連絡いただきたい。

GISシステムのバージョン情報

GISシステム: ALANDIS+

(オプション: ALANDIS+ 林地台帳システム)

■お問い合わせ先

神奈川県土地改良事業団体連合会 事業課 046-231-3242